

体操男子 田中 樹選手 (清風高3年)

不断の練習 美しい演技



近畿総体
2015

チャレンジ

若者のスポーツの祭典、全国高校総体(読売新聞社共催)が7月28日から、近畿2府4県を会場に開催される。大会に向けて全国各地で各競技の予選大会が順次行われ、選手たちが夢の舞台を目指して競いあう。地元開催となる近畿地方の期待の選手たちに、予選への意気込みや高校総体にかける思いを聞いた。

◇ 五輪選手を数多く輩出してきた体操名門校のエースとして、チームを引っ張る。日本のエース、内村航平選手が8



総体での団体優勝を目指し、チームを引っ張る田中選手(大阪市天王寺区の清風高で)＝大久保忠司撮影

連覇した4月の全日本選手権個人総合決勝では、高校生で最高の23位に入った。「これまで本番になると不安がよぎり失敗していたけど、今回は自信を持って臨めた」

身長は1府65。手足が長いから、演技がよりダイナミックに見える。梅本英貴監督(38)は「体の線の美しさが群を抜いている。神経を研ぎ澄ませ、美しく見せる意識を崩さない」と評価する。

オールラウンダーだが、器用ではないという。昨春の不調時には、「ひたすら練習で躍できる年齢に、日本で五輪

体に技のイメージをたたきこんで克服した」と話す。練習は午後9時まで。「体を動かさないと落ち着かないので」と、週1回の休みも近所の公園を走る。

憧れの存在は、清風高の先輩で、2004年のアテネ五輪体操男子の主将として日本を団体金メダルに導いた米田功さんだ。20年の東京五輪出場を見据え、「選手として活躍できる年齢に、日本で五輪があるなんて幸せ。行くしかない」と力を込める。

大阪出身。2歳の頃、保育園で週1回行われた体操の時間が大好きだった。両親に勧められ、地元の体操教室に通ったのがきっかけで競技の道へ。やめたいと思ったのは、「小学1年の時、手にできたママが破れて泣いた時ぐらい」と着実に力を付けてきた。大事にする言葉は、「継続は力なり」。3月の全国高校選抜大会では種目別の鉄棒を制し、個人総合でも2位となった。

近畿高校総体の体操の競技会場は地元の大阪市。団体では2年連続で千葉・市立船橋に敗れて2位に甘んじているだけに、「団体優勝しか考えていない」ときっぱり。「地元で船橋に3連覇させるわけにはいかない。みんなが目標に向かって一つになれた時、日本一になれるんだと思う」と雪辱に燃える。(久場俊子)